

第9回京都フィルムメーカーズラボ（Kyoto Filmmakers Lab 2016）結果報告

平成 29 年 3 月 15 日
京 都 文 化 博 物 館



京都フィルムメーカーズラボは、国内・海外の若手映画製作者を対象にして、東映京都撮影所、松竹撮影所のオープンセットを使い、短編時代劇作品を製作するワークショップ（公用語は英語）。時代劇セット、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、京都伝統の本格的時代劇を体験するワークショップです。またこれにより、内外の若手映画作家間のネットワーク形成を支援します。

9 回目を迎えた今年も昨年同様、従来のハンズオン時代劇に加え、東京国際映画祭と共催になるレクチャー「マスターズセッション」を開催。東京国際映画祭に参加する多彩なゲストを講師として招き、トークサロンとして交流の場も設けた。

応募状況は、web 公募＜2016 年 7 月 27 日～9 月 8 日（44 日間）＞の結果、42 カ国 247 名の応募がありました。審査の結果、11 カ国から外国人 24 名（うち日本在住 4 名）、日本人 16 名の若手作家 40 名が審査を通過。それぞれの出身国は日本、アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、フィリピン、中国、韓国、バングラデシュ、アフガニスタンとなった。

＜ハンズオン時代劇＞

石原興氏（映画監督／松竹）、安藤清人氏（照明監督／東映）監修による Hands-on 形式の時代劇製作を 10 月 29 日～11 月 1 日の 4 日間に渡って東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館を会場に開催。

＜マスターズセッション＞

10 月 31 日～11 月 3 日まで、旧武徳殿、京都文化博物館、京都大学、百万遍知恩寺を会場に、実技の殺陣講座を含め 8 つのセッションを開催。

宿泊については、太秦の旅館菊香荘を合宿所とし、参加者全員が泊まりこむ合宿形式をとった。

主 催： 京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

[京都府、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、京都文化博物館、立命館大学、京都文化博物館、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ]

共 催： 第 29 回東京国際映画祭実行委員会、KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

協 力： 京都クロスメディア推進戦略拠点

1 参加者募集

期 間： 2016年7月27日(水)～9月8日(金)

方 法： web ページからの申込み(3分以内の自作サンプルをオンラインで提出)

応募件数： 247名

国籍内訳：日本 26名、フィリピン 54名、アメリカ 26名、ネパール 22名、マレーシア 11名、インド 10名、インドネシア 7名、中国 7名、イギリス 6名、タイ 6名、ポーランド 5名、パキスタン 5名、スペイン 4名、ドイツ 4名、シンガポール 4名、アルゼンチン 4名、バングラデシュ 4名、リトアニア 3名、ブルガリア 3名、韓国 3名、フランス 2名、リビア 2名、カナダ 2名、ベトナム 2名、スリランカ 2名、香港 2名、スロヴェニア 2名、コソボ 1名、モロッコ 1名、チェコ 1名、アフガニスタン 1名、ブータン 1名、オーストラリア 1名、ウガンダ 1名、デンマーク 1名、オーストリア 1名、ミャンマー 1名、ノルウェー 1名、レソト 1名、台湾 1名、チリ 1名、ボリビア 1名、(以下二重国籍) フィリピン/カナダ 1名、ルーマニア/カナダ 1名、フィリピン/アメリカ 1名、コロンビア/アメリカ 1名

2 参加者審査

審査日： 2016年9月18日(日)

会 場： 京都文化博物館 7階会議室

審査員： 高橋剣氏(東映京都撮影所)、中嶋等氏(松竹撮影所)、岩田均(松竹撮影所)

審査通過： 40名

内 訳：

・外国人 24名(うち日本在住 4名)、日本人 16名。

＜アメリカ、ネパール、インド、フィリピン、中国(香港)、スペイン、バングラデシュ、日本、アフガニスタン、イギリス、オーストリア、ドイツ、韓国、デンマーク＞

・男性 30名、女性 10名

※審査通過者のうち 7名が病気また仕事等の理由でキャンセル。最終的には 33名が参加。

3 シナリオ選考コンペ、監督選考と参加者撮影担当分け

シナリオ選考コンペと採用シナリオについて：

- ・参加者から、3分を目処に作品シナリオを公募した結果 6本のシナリオの提出があった。
- ・内容、使用可能セット・俳優等の条件から以下のシナリオを選出。

『何者』 福島真紀(東映チーム)

『SILK ROAD』坂藤奈央美(松竹チーム)

ハンズオン時代劇の参加者は上記審査会での評価点上位 20名とし、評価点と参加者の希望を勘案して各担当を割り振った。

【東映チーム】 スーパーヴァイザー：安藤清人氏(撮影監督)

Juan M.R. Luna/ジュアン・MR・ルナ(監督/スペイン)、Md Barkat Hossain/Md・バラカト・ホサイン(撮影/バングラデシュ)、Frances You/フランシス・ヨウ(助監督/アメリカ)、Maki Fukushima/福島 真希(助監督/日本)、Yuichiro Taniguchi/谷口雄一郎(記録/日本)、Ryoma Ochiai/落合諒磨(録音/日本)、Randolph Longjas/ランドルフ・ロンジャス(照明/フィリピン)、Yudai Nakamura /中村雄大(照明/日本)、Yusuke Kinoshita/木下雄介(製作/日本)

* Sahraa Karimi/サーラー・カリミ(美術/アフガニスタン)はキャンセルのため不参加。

【松竹チーム】 スーパーヴァイザー：石原興氏（映画監督）

Andrew Pollins／アンドリュー・ポリンズ（監督／アメリカ）、Sushan Prajapati／スシャン プラジヤパティ（撮影／ネパール）、Anup Poudel／アヌップ・ポウデル（助監督／ネパール）、Asami Fujii／藤井亜沙美（助監督／日本）、Piyush Thakur／ピウシュ・タカー（記録／インド）、Breech Quincy Quilantang／ブリーチ・クウインシー・クウランタン（美術／フィリピン）、Ema Yoshida／吉田瑛摩（録音／日本）、Naomi Sakato／坂藤奈央美（製作／日本）、Lam Wai Lung／リン・ワイ・リュウ（助監督／中国）

* Shinichi Ohuchi／大内真一（照明／日本）はキャンセルのため不参加。

【マスターズセッションからの参加者】

Daniel Tornero Lopez／ダニエル・トルネロ・ロペス（スペイン）、Joseph Atkinson / ジョセフ・アトキンソン（イギリス）、Fyzal Boulifa／ファイザル・ボウリファ（イギリス）、Dennis Zanatta／デニス・ザナッタ（アメリカ）、Merlin Camozzi／メルリン・カモッジ（アメリカ）、Shun Otsubo／オオツボ・シュン（アメリカ）、Akihiro Yamamoto／山本晃大（日本）、Kenjo McCurtain／ケンジョウ・マッカータイン（日本） Masahiko Yoshida／吉田雅彦（日本）、Tina Laschke／ティナ・ラシュケ（ドイツ）、Yanqiu Fei／ヤンキウ・フェイ（中国）、Iben Gylling／アイベン・ギリング（デンマーク）、Tokio Ohara／大原とき緒（日本）、Keihiro kanyama／完山京洪（韓国）、Daisuke Ito／伊藤大将（日本）

* Matthias Zuder／マティアス・ズダー（オーストリア）、Jyoti Karki／ジョティ・カルキ（ネパール）、Tomoko Kana／海南友子（日本）の3名はキャンセルのため不参加。

4 育成ラボ日程

■Hands-on Jidaigeki

10月29日（土） 13:00～14:00

【1】オリエンテーション 会場：東映京都撮影所

参加者、撮影所スタッフそれぞれの自己紹介およびラボ全体の概要と、移動・宿泊やその他注意点を説明。



14:00～18:00

【2】プリプロダクション・ミーティング 会場：松竹撮影所、東映京都撮影所

各チームに分かれ、使用スタジオ、セット等を確認後、撮影・演出プランの打合せ。

参加者：18名（松竹チーム9名、東映チーム9名）

国籍：8カ国（アメリカ、インド、スペイン、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、日本）

10月30日(日)、31日(月) 8:00~18:00 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所

【Hands-on 時代劇】短編時代劇撮影

東映チーム・松竹チームに分かれて2日間で作品撮影。

参加者： 18名(松竹チーム9名、東映チーム9名)

国籍： 8カ国(アメリカ、インド、スペイン、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、日本)



■Masters Session

会場：東映京都撮影所、松竹撮影所、旧武徳殿、百万遍知恩寺、京都大学国際科学イノベーション棟、京都文化博物館

10月31日(月) 14:00~17:00 会場：松竹撮影所・東映京都撮影所

【Hands-on 時代劇撮影見学会】

ハンズオン時代劇の撮影現場を、マスターズセッションからの参加者とマスコミ関係者等が見学。

- ・参加者:15名
- ・国 籍: 8カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、中国、韓国、日本)

11月1日(火) 10:00~10:30 会場: 京都文化博物館フィルムシアター

【京都フィルムメーカーズラボ Hands-on 時代劇ラッシュ試写会】

ハンズオン時代劇で撮影した各チームの素材をラッシュ上映。

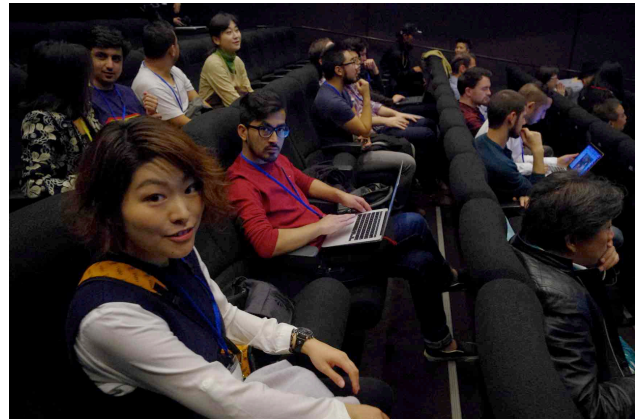
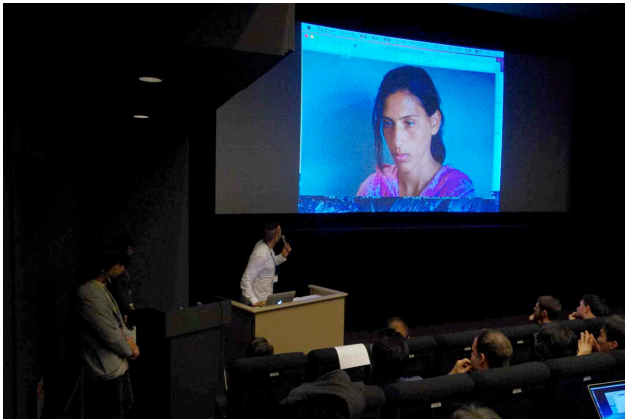
- ・参加者: 44名
- ・国 籍: 12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、フィリピン、バングラデシュ、中国、韓国、日本)

11月1日(火) 11:00~15:30 会場: 京都文化博物館フィルムシアター

【session 1】ライトニング・トーク (クローズド・セッション、英語のみ)

次世代のマスターとなる、KFL参加者が自身の実績、次作、夢などを語る、各自3分のトーク。

- ・参加者:47名
- ・国 籍: 12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11月1日(火) 16:00~17:00 会場: 京都文化博物館フィルムシアター (オープン・セッション、同時通訳)

【session 2】日本との共同製作の可能性

日本映画業界を取り巻く状況、とくに作品製作や配給の資金繰りなど具体的な事例を提示してのレクチャー。

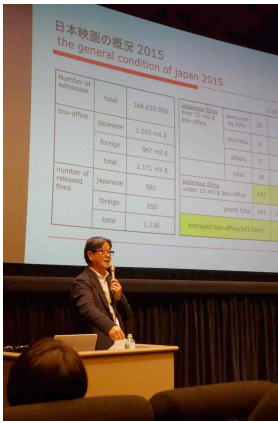


講師: 堀越謙三 (プロデューサー/ユーロスペース代表)

1977年に日本に初めてヴィム・ヴェンダース、R.W.ファスビンダーらを紹介する「ドイツ新作映画祭」を開催、自主上映・配給活動を開始。1983年渋谷にミニシアター「ユーロスペース」を開館。以来配給会社としてクローネンバーグ、カウリスマキ、トリアー、張芸謀、アルモドバル、蔡明亮ら新しい才能をいち早く日本に紹介した。1991年から日本映画の製作や海外との共同製作を手がけ、ウェイン・ワン「スモーク」、レオス・カラックス「ポーラX」、フランソワ・オゾン「まぼろし」、黒沢清「大いなる幻影」、そしてアッバス・キアロスタミの遺作となった「ライク・サムワン・イン・ラブ」などがある。

1997年にアテネ・フランセ文化センターと共同で特定非営利活動法人「映画美学校」を設立。その後東京芸術大学大学院映像研究科の立ち上げを主導、2013年まで教授を務める。

- ・参加者:60名
- ・国 籍:12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11月1日(火) 18:00~19:30 会場: 旧武徳殿 (クローズド・セッション、逐次通訳)

【session 3】Hands-on 殺陣

講師: 東映殺陣師

東映京都撮影所殺陣師による京都の殺陣の精神とスタイルのレクチャーとデモンストレーション。

- ・参加者: 42名
- ・国籍: 12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11月2日(水) 10:00~12:00 会場: 京都文化博物館フィルムシアター (オープン・セッション、同時通訳)

【session 4】TIFF 審査員セミナー

第29回東京国際映画祭で日本映画スプラッシュ部門の審査員3名を招いてのトークセッション。

講師:



■マーク・アダムズ(エジンバラ国際映画祭 アーティスティック・ディレクター)

映画ビジネス誌 Screen International のチーフ批評家を務め、25年以上にわたり、映画ジャーナリストおよび評論家として活躍し、ヴァラエティ誌、ハリウッド・レポーター誌、ムービング・ピクチャーズ・インターナショナル誌や、多くのイギリス国内紙に寄稿してきた。



■カレル・オフ(カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭 アーティスティック・ディレクター)

カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭で9年間プログラマーおよび選考委員を務めた後、2010年に同映画祭のアーティスティック・ディレクターに任命された。欧州議会によって贈られるラックス映画賞の選考委員でもある。



■ 深田晃司(映画監督)

1980 年生。2010 年『歓待』で東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門作品賞、プチョン国際映画祭最優秀アジア映画賞、13 年『ほとりの朔子』でナント三大陸映画祭グランプリ、15 年『さようなら』で Filmadrid 国際映画祭ディアス・デ・シネ賞、16 年『淵に立つ』でカンヌ映画祭「ある視点」部門審査員賞を受賞。

- ・ 参加者:62 名
- ・ 国 籍: 12 カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11 月 2 日 (水) 14:00~16:30 会場: 東映京都撮影所試写室 (クローズド・セッション、英語のみ)

【session 5】現在から見えてくるクラシック作品の魅力-成瀬巳喜男監督作品『杏っ子』上映と講演
ニューヨーク映画祭のディレクターを招いて、日本映画の魅力についてのレクチャー。

講 師: ケント・ジョーンズ(映画監督、批評家、ニューヨーク映画祭ディレクター)

長年の評論活動をはじめ、マーティン・スコセッシが製作する数多くのドキュメンタリー作品に携わる。エミー賞にノミネートされ、ピーボディ賞を受賞した“A Letter to Elia”(10)では共同脚本・監督を担当。アルノー・デプレション監督『ジミーとジョルジュ 心の欠片を探して』の脚本も共同で執筆した。2012 年、ニューヨーク映画祭のディレクターに任命され、現在も務めている。

- ・ 参加者:42 名
- ・ 国 籍: 12 カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11月2日（水）17:45～18:00 会場：東映京都撮影所試写室（クローズド・セッション、英語のみ）

【session 6】インドから世界を望む+3DVRによる映画作品プロモーション

『バーフバリ』プロデューサーによる作品の背景と、VRを広報展開した試みについてのレクチャー。



講師：ショーブ・ヤーラガッタ（アーカ・メディア・ワークス CEO、プロデューサー）

インドのハイデラバードとバンガローを拠点とする、TV・映画製作のリーディングカンパニーのひとつ、アーカ・メディア・ワークスの CEO であり共同設立者。同社はこれまで興行的に成功を収め、高い評価を得ている作品を多数プロデュースしている。S.S.ラージャマウリ監督による2部に渡る『Baahubali』は2015年の7月に世界にリリースされ、インドで最も興行収入をあげた作品の一つとなった。待望の続編は2017年夏に公開予定。ショーブは、数々の作品やブランドを手がけた経験から全方位対応可能なマーケティングエージェンシーであり、その探求心は趣味でも生かされ料理の研究にも熱心。

- ・ 参加者:42名
- ・ 国籍:12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



18:30～20:00

【レセプション】会場：松竹撮影所 スタジオ内

京都ヒストリカ国際映画祭、京都映画企画市、京都フィルムメーカーズラボの合同レセプション。



11月3日(木) 10:00~12:00 会場：百万遍知恩寺 (クローズド・セッション、英語のみ)

【session 7】カムバック・サーモン KFL 卒業生の今

京都フィルムメーカーズラボの過去の参加者による、自身のキャリアと今後についてのトーク。

講師：



■ Yuki Saito (映画監督、Kyoto Filmmakers Lab 2008 参加者)

1979年千葉県生まれ。高校卒業後に渡米し、本場ハリウッドで8年間映画を学ぶ。2006年に帰国後は、アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ『バベル』他、名匠の撮影現場に参加。2015年、短編映画『ゴッサム ジャンブル パフェ』でショートショートフィルムフェスティバル&アジア史上初となる4度目の「観客賞」を受賞。また、農林水産省とコラボし日本食文化をテーマにした『しゃぶしゃぶスピリット』は、世界各国40以上の映画祭で上映。2016年秋には商業長編デビュー作として川端康成原作「古都」を現代版にアレンジし、松雪泰子(一人二役)を主演に迎え、橋本愛、成海璃子、伊原剛志、奥田瑛二など実力派俳優が出演し、原作の未来を描く映画『古都』の世界公開が控えている。



■ Giorgia Farina (映画監督、Kyoto Filmmakers Lab 2011 参加者)

幼い頃から映画に魅了され、大学で社会学を学んだ後にコロンビア大学映画学科で修士を取得。その間制作した短編映画は、ヴェネチア国際映画祭短編映画部門で紹介されたほか、米国映画批評会議賞の学生部門で受賞。『Bello di Mamma』(12)は国営テレビで放映された。2013年、28歳で制作した初長編映画『Amiche da Morire』はシチリアの小さな村で暮らす3人の女性を主人公に、イタリアでの女性の役割について描いたブラックコメディで商業的な成功を収めた。本作『わたしが棄てたナポレオン』は国内外の配給が決まっている。本作で、イタリアのアカデミー賞といわれるダヴィッド・ディ・ドナテッロ賞にて最優秀新人賞ノミネートするなど、さらなる飛躍が期待されている若手監督。

・参加者:40名

・国籍:12カ国(アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)



11月3日(木) 13:00~14:30 会場: 京都大学国際科学イノベーション棟 (オープン・セッション、同時通訳)

【session 8】日本の特撮魂 + 中国での特撮作品を撮ること

元・円谷プロダクションの特技監督による、現在の特撮作品の動向についてのレクチャー。



講師: 八木毅 (映画監督・特技監督、KyotoFilmmakersLab2013 参加者)

東京都出身 早稲田大学文学部卒、特撮作品で有名な老舗・円谷プロで「ウルトラ」シリーズなど多くの特撮作品を監督・特技監督として手がけた。また、プロデューサーとしてもTV『ウルトラマンマックス』では映画界の金子修介監督や三池崇史監督を招聘するなど既存の方法に捉われない良質な作品作りにこだわり抜いた。『大決戦! 超ウルトラ8兄弟』(2008・松竹)は現在までの歴代ウルトラマン映画 No.1 興行収入作品である。その後、円谷プロから独立後は特撮に限らず、ホラー、ラブストーリーなど様々な作品を手掛け、京都で『時代劇』などの映画を撮ることが夢である。Sci-fi をこよなく愛する。今年 2016 年には中国・上海での特撮番組の撮影で特技監督を担当した。最新作は『AKB ラブナイト・恋工場』。現在は来年公開作品の準備中。

- ・ 参加者: 59 名
- ・ 国籍: 12 カ国 (アメリカ、スペイン、イギリス、ドイツ、デンマーク、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、中国、韓国、日本)

